

神戸大学

国際人間科学部 2019

Faculty of Global Human Sciences, Kobe University



人という始源、地球という舞台。

グローバルイシューへの挑戦

国際人間科学部は、深い人間理解と他者への共感をもって地球的規模の課題に向き合い、世界の人々が多様な境界線を越えて共存できる「グローバル共生社会」の実現に貢献する「協働型グローバル人材」を養成します。現代の世界には、環境、災害、民族、宗教、経済格差、人権、教育、社会福祉等に関わり、現代社会が地球規模での協働を通して取り組まなければならない課題（グローバルイシュー (global issues) と呼びます）が数多く存在しています。本学部では、様々な専門分野からこのグローバルイシューの構造を明らかにし、多様な境界線を越えて人々と自在にコミュニケーションをとり、課題の共有と解決に向けてリーダーシップを発揮できる「協働型グローバル人材」を社会に輩出することを目指します。



学部を構成する4学科

グローバル文化学科

取得可能な学位: 学士(学術) Bachelor of Arts

発達コミュニティ学科

取得可能な学位: 学士(学術) Bachelor of Arts

環境共生学科

取得可能な学位: 学士(学術) Bachelor of Arts

子ども教育学科

取得可能な学位: 学士(学術) Bachelor of Arts
学士(教育学) Bachelor of Education

Contents

学部長からのメッセージ	04
アドミッションポリシー/沿革	05
カリキュラム	06
学生メッセージ	08
グローバル・スタディーズ・プログラム	10
主な協定校	14
学科紹介	15
グローバル文化学科	16
発達コミュニティ学科	20
環境共生学科	24
子ども教育学科	28
インフォメーション	31
キャンパス紹介	32
募集人員/取得可能な資格免許/学生生活支援	34
アクセス	35

Message from Dean

学部長からのメッセージ

21世紀に入り、私たちを取り巻く社会は大きく変わりつつあります。

インターネットをはじめ情報通信技術が飛躍的に進化したことで、ヒトやモノ、それに情報やお金が国を越えて自在に移動し、瞬時に結び付くようになりました。そこでは新たな出会いもかつてとは比べものにならないくらい増え、近未来への期待は膨らみます。

そのなかで、私たちの抱える課題、そしてそれを克服する方向も、少しずつ明らかになっています。少子高齢化、貧困・格差拡大、エネルギーや資源の制約、環境悪化など容易に解決しがたい問題が地球のあちこちに遍在していることは、よく知られています。ときに激しい摩擦や対立を誘引する問題ですが、近年、その実態が世界中の人々に瞬時に映し出され、地球規模で対処すべきとの認識が拡がりつつあります。個々に遭遇する問題ですが、それに対しては、様々な人々が境界を越えて協力して解決の道を探る、そうした協働の重要性が自覚されようとしているのです。

そして、その動きをより確かなものにするため、複眼的な視点と柔軟な姿勢をもち国内外で地球的課題(グローバルイシュー)に積極的に関わる人の養成が不可欠といわれます。神戸大学は、2017年春、国際人間科学部を創設しました。この学部では、深い人間理解と他者への共感をもって地球的課題と向き合い、多様な人々が共存する「グローバル共生社会」の実現に向けて貢献する「協働型グローバル人材」を育成することを目的としています。

国際人間科学部は、国際文化学部と発達科学部を再編統合して作り上げた学部です。二つの学部はいずれも、「異文化理解」「人間発達」をキーワードに四半世紀前に設置された学際系学部です。国際人間科学部は、ここで醸成された強みと特色を最大限に活かし、新たな時代に向けて「協働型グローバル人材」を育成していきます。

そのため、本学部では、特色ある教育プログラム「グローバル・スタディーズ・プログラム(GSP)」を実施します。これは、学生全員が海外研修とフィールド学修を履修する実践型教育プログラムで、グローバルイシューを実体験を通して学びます。実施にあたっては、画一性を排し、一人ひとりが専門性や希望に応じて履修できるよう多様な内容と方法を準備しています。

また、本学部においては非常に多くの授業で少人数対話型の形式を積極的に取り入れ、相互の議論を通して主体的な学びを促進している点も、大きな特色です。さらに、本学部には、理系・文系を超えた実に多彩な学問分野が置かれています。学生自身が、それらを自由に組み合わせながら、現代の世界的諸課題に即応した高度な専門性を身に付けることができるのは、この学部ならではの強みといえます。

国際人間科学部の試みは、今始まろうとしています。それは、未来への道を模索する実践的な学問プロジェクトです。教員と職員、そして学生諸君が一体となって、このプロジェクトに挑戦していく覚悟です。熱意あるみなさんが、この学問共同体に参加されることを強く期待します。

国際人間科学部長 岡田 章宏 教授



Admissions Policy

アドミッションポリシー

入学者受け入れ方針

国際人間科学部では、グローバルな社会で生起する環境、災害、民族、宗教、経済格差、人権、教育、社会福祉等に関する諸課題を深い人間理解と他者への共感をもって解決し、「グローバル共生社会」の実現に貢献する「協働型グローバル人材」を養成することを目的としています。そのために、次のような学生を求めています。

- 1 現代社会の諸問題を発見し、その問題を多面的にとらえて考察し、自分の考えをまとめる基礎的な能力を有する学生
- 2 異なる考え方や文化を尊重し、共感をもって、積極的にコミュニケーションを行う資質を有する学生
- 3 国内外の様々な人と連携・協働して、地球規模で問題を解決し、社会に貢献しようとする意欲を持つ学生

沿革

平成29年(2017年)4月、国際文化学部と発達科学部を再編統合し、国際人間科学部を設置しました。

【国際文化学部・国際文化学研究科】

- 1923年(大正12年) 官立姫路高等学校設立
- 1949年(昭和24年) 神戸教養課程設置
- 1963年(昭和38年) 神戸大学教養部設置
- 1992年(平成4年) 神戸大学教養部を改組し、神戸大学国際文化学部設置
- 1997年(平成9年) 神戸大学大学院教育学研究科を改組し、神戸大学大学院総合人間科学研究科修士課程設置
- 1999年(平成11年) 神戸大学大学院総合人間科学研究科博士課程設置
- 2005年(平成17年) 神戸大学国際文化学部改組
- 2007年(平成19年) 神戸大学大学院総合人間科学研究科を改組し、神戸大学大学院国際文化学研究科設置

【発達科学部・人間発達環境学研究科】

- 1874年(明治7年) 兵庫県師範伝習所設置
- 1949年(昭和24年) 兵庫師範学校と兵庫青年師範学校を統合し、神戸大学教育学部設置
- 1981年(昭和56年) 神戸大学大学院教育学研究科修士課程設置
- 1992年(平成4年) 神戸大学教育学部を改組し、神戸大学発達科学部設置
- 1997年(平成9年) 神戸大学大学院教育学研究科を改組し、神戸大学大学院総合人間科学研究科修士課程設置
- 1999年(平成11年) 神戸大学大学院総合人間科学研究科博士課程設置
- 2005年(平成17年) 神戸大学発達科学部改組
- 2007年(平成19年) 神戸大学大学院総合人間科学研究科を改組し、神戸大学大学院人間発達環境学研究科設置

【国際人間科学部】

- 2017年(平成29年) 神戸大学国際文化学部と発達科学部を再編統合し、神戸大学国際人間科学部設置

学びの特色

POINT 01 グローバルな発信と課題解決のための基礎をつくる

グローバル社会に対し即応可能な発信力を養うため、複数言語でのプレゼンテーションやライティング、またICTによる情報発信など、目的に応じて多数開講される科目を受講し、十分なコミュニケーション能力を身に付けます。また、グローバルイシューの現場で実際に情報を収集・分析するために必要な技能を身に付けることを目的として、多様な人々と協働しつつ課題解決に向けて先導する能力を開発するための「協働型リーダーシップ論」や、フィールド学修を通して実際のグローバルイシューの実態を把握するために必要な基本的技能を培う「フィールドワーク方法論」などの専門科目を学び、実践的対応力を修得します。

POINT 02 実践的なグローバルを体験する

グローバルイシューの解決のために多様な人々と協働し、その活動の中でリーダーシップを発揮する行動力を身に付けるための実践型教育プログラムとして、「グローバル・スタディーズ・プログラム(GSP)」を設置しています。このプログラムでは、専門性と希望に応じ用意されたコースの中から、学生全員が自らの海外での学びの場を選択し、学修の具体的な課題を自ら設定して、海外研修と国内外でのフィールド学修に参加します。GSPを通じて得た具体的な体験から、グローバルイシューを解決する際に必要な問題意識や実践的な視点を獲得し、それらを理論的知識に接合して、自らの将来のキャリア形成に活かしていきます。



POINT 03 多角的視点から専門的知識を身に付ける

「異文化理解」「人間発達」「環境共生」に視点をおき、多文化をめぐる複雑な問題の解決への道筋を提案する発信力、「人間の発達」の諸相を理解しそれを支えるコミュニティの形成を実現する実践力、共生社会を支える環境の創出と保全に寄与する分析力と行動力、さらに、これと連携し次世代指導者を育成する教育力を身に付けるための専門的知識を学びます。ラーニングコモンズなどの施設、フィールド学修、広い知見と豊富な経験をもつ教員の配置など、全ての形式の授業（講義、演習、実験・実習）においてアクティブ・ラーニングを推進する環境を通じて、専門的知識をベースに、自ら課題を発見し解決する力を養います。

入学から卒業までの履修の流れ



Messages from Students

学生メッセージ



グローバル文化学科 2年

橋本 和奈 Kazuna Hashimoto

研修先 オーストラリア ELSユニバーサル・イングリッシュ・カレッジ(語学研修)

メディアや表象文化、ジェンダーについて国際的な視点から学びたくてこの学科を選びました。研修では同性婚の可否を巡る国民投票の最中だったオーストラリアで、多様性の象徴である虹色の旗がVote YESを掲げる上空に飛行機雲がvote NOと描く様を目にしました。帰国後に同性婚が認められましたが、日本での報道は殆ど無く、その温度差に愕然としました。多様性に理解を求める声広がる中、世界ではLGBTQを含むマイノリティを奇異な存在としてではなく身近な存在として描く動きが広がっています。メディアにおける表象が大衆の抱くイメージに影響を与えることもあります。私は今後の大学生活で、メディアを通じてジェンダーやLGBTQを取り巻く問題を解決しようとする取り組みについて研究したいと考えています。



発達コミュニティ学科 2年

野村 颯汰 Sota Nomura

研修先 フィリピン QQイングリッシュ(語学研修)

私は1年生の夏に本学部のGSPの制度を通じてフィリピンのセブ島で行われた語学研修に行き、平日は英語の勉強を、休日には現地のストリートチルドレンの子ども達と交流するというボランティア活動に参加しました。そこで英語でコミュニケーションをとる本当の楽しさに気づき、また貧しい状況に置かれている子ども達を救いたいという強い気持ちが芽生えました。私が発達コミュニティ学科を目指した動機は、大学入学までずっとサッカーを続けてきた為、スポーツに興味を持ちスポーツについて学びたいという漠然としたものでした。しかし、このプログラムを通じて将来は国際機関で英語を使いながらスポーツを通じた貧困支援に関わる仕事をしたいと思うようになりました。



環境共生学科 2年

加治屋 慎太郎 Shintaro Kajiya

研修先 カナダ ウェスタン大学(英語研修)

僕は、人に関係する環境に広く興味があり、多分野から環境について学ぶことができる環境共生学科に入学しました。入学時から英語圏へ留学を考えており、GSPオフィスとも相談しながら、環境や、自分の関心のある分野を考慮して、カナダ オンタリオ州でのプログラムへの参加を選択しました。カナダへの留学中、特に印象的だったのは、街に緑が多く、それがとても美しい、と感じられたことでした。1年次に受けた植物に関わる分野の授業が興味深かったこともあって、この留学で気づいた街と緑の関係について、より深く考えてみたいと思うようになりました。今後はこれまで持っていた環境に対する広い興味にこのテーマを加え、専門的に学んでいこうと思っています。



子ども教育学科 2年

森田 麻友 Mayu Morita

研修先 米国 カリフォルニア大学デービス校 教育学部(英語と心理学)

私は小学校の教員になることを目指していて、国際人間科学部で、より多角的に教育について学びたいと考え、本学部の子ども教育学科を志望しました。GSPではアメリカでのプログラムに参加し、心理学について英語で学んだり、研究施設で子どもたちの実験を見せていただいたりしました。初めての海外はとても不安でしたが、友人や現地の先生に助けられました。日本ではなかなか得られない体験をし、参加して良かったと感じています。GSPで心理学という分野を学び、教育には教育以外の視点を持つ事も大切だと実感しました。今後は子どもの心理や発達についての興味を更に深めると共に、子どもの支援にはどのような関わり方があるのか、考えてみたいと思っています。

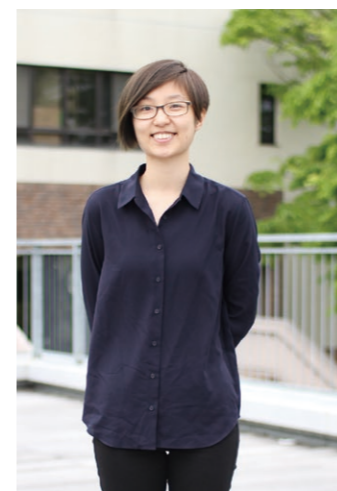


交換留学生

アンドレス クベロ サンチェス Andres Cubero Sanchez

出身校 スペイン バルセロナ自治大学

私はスペインのバルセロナで3年間日本語を学んでおり、日本語をもっと勉強したいと思い、日本を留学先を選びました。神戸大学を選んだ理由は、神戸が海と山の町であり、故郷のバルセロナに似ていることが魅力的だったからです。留学生生活はにぎやかです。多くの留学生がいるので、新たな文化を習って、新しい経験を聞いて、異文化に触れる機会を楽しんでいます。日本人の友達も多くできました。留学生生活は難しいところもあります。日本語はまだ上手く話せず、授業は忙しい中でも、新しい生活に慣れなければなりません。一方で、留学生生活は特別なので、存分に楽しみたいと考えています。神戸大学は、留学に向けた大学だと思います。多くの人と大切な思い出ができ、いい友達ができ、神戸大学での留学は強く心の中に残ると思います。神戸大学、神戸、どうもありがとうございます。



交換留学生

梁 芸瑄 Liang Yun-Hsuan

出身校 台湾 国立政治大学

私は子供の頃からアニメや映画を通して日本文化に触れ、関心を持ってきました。また大学の授業で『こころ』や『人間失格』などの作品を読み、日本文学と中国文学では同じように人や道徳に関する内容を扱っていても、その視点が違うことに興味を持つようになりました。台湾は移民社会であり、様々な文化交流があります。私は異文化の交流が物の見方を広げると信じていて、文化研究に興味を持ち、この国際人間科学部を希望しました。日本文化の中には、漢字から生まれた仮名や、華語世界にも輸出された和製漢語など漢文化との交流の中から生まれたものがあります。日本は、文化を大事にしつつ文化交流後も新しいものを生み、また文化宣伝が得意だと感じます。ここで様々な文化に対する深い視点を学び、将来は日本が持つ文化を大切にす精神を自分の国に伝えたいと思っています。

Global Studies Program

グローバル・スタディーズ・プログラム

グローバル・スタディーズ・プログラム (GSP) とは、実体験を通してグローバルイシューについて学ぶことを目的とし、本学部生全員が海外研修とフィールド学修に参加する実践型教育プログラムです。国内外の多くのフィールドで実施される個別プログラムへの参加を通じて、みなさんが将来、グローバル社会の課題解決を目指して多様な人々と協働し、その中でリーダーシップを発揮していくために必要な力を自らの中に育てていきます。

グローバル・スタディーズ・プログラムの特色

グローバルイシューの現場での実践的な取り組み

1年生の前期、学生は「グローバルイシュー概論」「グローバルイシュー演習」を通じ、文理の境界を越えた様々なグローバルイシューについて学びます。そこで培った自らの興味・関心にもとづき、学生自身がテーマ設定をして、海外、国内の〈現場＝フィールド〉を選択します。フィールドで実際に様々な人々と出会い、協働することを通して、より広い視点から自らのテーマをグローバルイシューとして深化させ、その解決を模索します。

100を超える多様なプログラム

GSPでは、研修の期間、内容、フィールド学修の場所によって、〈実践型〉、〈研修型〉、〈留学型〉という3つのグローバル・スタディーズ・コース (GSコース) が設定されています。学生は、自らの学修計画に応じて、一つのGSコースを選択し、さらに各コースのもとにある合計100を超える個別のプログラムの中から、自分が取り組むグローバルイシューに最も適したプログラムに参加します。

学生のニーズに応じた学修支援

GSPでの学修を支援するために、GSPオフィス (室長、副室長、5名の専門スタッフから構成) を設置し、きめ細かい情報提供と学生の主体性を引き出す指導をしています。また、〈GEMs＝神戸大学グローバル教育管理システム〉により、オンラインで個別プログラムの検索、内容閲覧、参加申し込みを行うことができます。

グローバル・スタディーズ・プログラムの流れ

GSPは、事前学修、「GSコース」 (海外研修とフィールド学修)、事後学修の3つのステージで構成されます。「GSコース」では、一人ひとりの学修計画に応じて「実践型GSコース」「研修型GSコース」「留学型GSコース」のいずれかを選択します。

事前学修

- グローバルイシュー概論
代表的事例の現状と解決策を専門的見地から学修
- グローバルイシュー演習
アクティブ・ラーニングを通じて具体的な事例を学修
- オリエンテーション
自らが取り組むグローバルイシューに関する具体的な課題を設定

コース選択

実践型GSコース

海外スタディツアーまたはインターンシップ

研修型GSコース

海外語学研修またはサマースクールと、国内フィールド学修

留学型GSコース

交換留学または中期留学

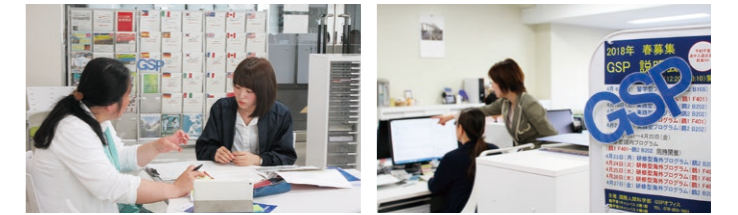
事後学修

- リフレクション
「GSコース」での体験の共有
- グローバルな課題に対する自己の実践の意義づけ
- フィールド学修についての成果発表とレポート作成



GSPオフィス

GSPオフィスは、GSPの学修全般をサポートする部門です。GSPオフィスでは、海外研修やフィールド学修の豊富な経験をもつコーディネーターが常駐しており、学生一人一人がGSPの各科目を効果的に学修し、GSPの目的を達成できるよう、専門のコーディネーターが学業と海外生活の両面についてアドバイスします。



GSPオフィスの役割

- 1 学生一人ひとりの専門性に合わせた学修指導**
学生はコーディネーターとの相談を重ねながら、3つの「GSコース」の中から自分の専門に合うプログラムを見つけます。事前学修・事後学修の他、プログラム参加中も、海外研修先などからコーディネーターによるアドバイスを受けることができます。
- 2 海外研修及びフィールド学修プログラムの情報提供**
各種のプログラムについて最新の情報を提供する他、海外研修のための奨学金の紹介も行っています。GSPオフィスは、学生同士の情報交換の場でもあります。様々な興味関心をもつ学生が集い、学生同士がお互いの力を発揮して協力して学ぶことができます。
- 3 海外渡航に関わる安全と危機管理**
渡航前の「オリエンテーション」での危機管理に関するアドバイスの他、神戸大学全体はもちろん、海外危機管理専門の機関とも連携しながら、渡航中の学生の安全確認等を実施します。

GSPオフィスの教員

役職	教員名	職名	研究分野
室長	西谷 拓哉	教授	アメリカ文学、アメリカ映画
副室長	青木 茂樹	教授	素粒子、宇宙線物理学
統括コーディネーター	落合 知子	准教授	異文化間教育学、教育人類学
コーディネーター	水野 直子	講師	社会人口学、国際開発
コーディネーター	正楽 藍	講師	教育社会学、比較教育
コーディネーター	高橋進之介	助教	社会学、社会運動研究、日本研究
コーディネーター	吉田 実久	助教	科学教育論、科学教育の文化研究

グローバル・スタディーズ・コース (GSコース) の概要と具体例

各コースでは、多様な期間と内容を備えた海外スタディーツアーやインターンシップ、語学研修、サマースクール、留学など、国内外の様々なフィールドでの実践的な学修へ主体的に参加します。ここで挙げた具体例はごく一部で、他にも多彩な個別プログラムを用意しています。なお、個別のプログラムへの参加費用や必要となる保険加入等は自己負担となります。海外研修に係る学生の経済的な負担を軽減するため、神戸大学の助成制度や日本政府の支援制度を活動することができます。

実践型GSコース [日本で学び、海外でフィールド学修を行う]

国内で学修した専門的知識を海外の現場で応用し、その地域の人々と協働しながら実践的にグローバルイシューに取り組み、その解決を図るための能力を養います。

研修先	内容
セントクラウド州立大学 他 (米国)	大学での講義やワークショップに参加し、公立小学校でのフィールドワークを通じ、日米の教育現場を比較する視点を養います。
マケレレ大学 他 (ウガンダ)	アフリカを「援助対象」としてみるのではなく、同時代の人間が暮らす社会という側面から捉え直します。
上海交通大学 他 (中国)	太湖周辺及び水環境に関するフィールドワークを行い、地域が直面する環境問題・社会問題を理解します。
ヤゲウォ大学 他 (ポーランド)	100年に及ぶ日本とポーランドの交流を体感し、ポーランドにおける日本文化の受容について学びます。
カセサート大学 他 (タイ)	カセサート大学附属農業研究所 (KAPI) において、農産物の分析の取り組みを学び、英語による実験結果のプレゼンテーションを行います。
福祉団体 (メドー) (英国)	英国ケンブリッジにある教育関係の福祉団体メドーで、支援の実際を見学・調査し、日英の教育・子ども支援について考察します。
アメリパ 他 (チェコ)	アメリパと呼ばれるサマーアカデミーで、音楽によるコミュニケーションの実際を学んで発表し、音楽療法についても学ぶ機会を持ちます。

研修型GSコース [海外と日本で学び、日本でフィールド学修を行う]

海外での語学研修やサマースクールに参加し、海外で実際に生活することで国際的な視野と外国語運用能力を獲得すると共に、日本国内でフィールド学修を行うことにより、比較文化的・多角的な視点からグローバルイシューに取り組み、その解決を図るための能力を養います。

テーマ	研修先	内容	
民族文化の継承	海外	テヘラン大学他 (イラン)	午前中は、テヘラン大学でのペルシャ語の語学研修へ参加。午後からは、古典音楽のレッスンを受講し、民族音楽の伝承、社会のなかでの位置づけを学びます。
	国内	淡路人形座	淡路人形座の業務のサポートを通して、地域資源を活かした地域づくりについて学びます。
子どもの健全育成	海外	カリフォルニア大学デービス校 (米国)	心理学と英語、UCデービス心理学関連の研究所への訪問、講義等の4週間の英語研修へ参加します。
	国内	神戸大学サテライト施設あーち	様々な境遇に置かれた子どもたちを支援する「学習支援」や「居場所づくり」に関わります。
スポーツボランティア	海外	ウェスタンシドニー大学 (オーストラリア)	2週間のボランティア英語研修とボランティア体験ワークショップに参加します。
	国内	マスターズ甲子園	高校野球OBが再び甲子園を目指す「マスターズ甲子園」の運営に参加し、スポーツプロモーションについて学びます。
サイエンスコミュニティ	海外	カリフォルニア大学デービス校 (米国)	アカデミックスキル、科学技術に関する語彙力強化、科学技術とビジネスに関する4週間の英語研修へ参加します。
	国内	神戸大学サイエンスショップ	サイエンスカフェ (科学者と一般市民の語らいの場) の企画・実施や地域における市民の科学活動支援に取り組みます。



留学型GSコース [海外の大学で学び、海外でフィールド学修を行う]

中長期にわたって海外に滞在し、専門的知識を修得すると共に、現地でフィールド学修を行い、その地域の人々との交流を通して、自らが取り組むべきグローバルイシューを発見して、その解決を図るための能力を養います。

タイプ	研修先	内容
交換留学	協定校については、14ページをご覧ください	1年もしくは半年の協定校との交換留学です。神戸大学に学費を納める代わりに、協定校での学費・入学金を免除されます。協定校で修得した単位を神戸大学の単位として算入することができます。留学を計画的に行えば、4年間での卒業が可能です。
中期留学	アラバマ大学 (米国)	8週間英語・文化研修へ参加し、例えば、アメリカ南部での奴隷制や人種差別の歴史についてフィールド学修を行います。
	ブロック大学 (カナダ)	14週間に及ぶ英語研修 (週25時間) へ参加するとともに、自ら設定したフィールド学修に取り組みます。
	オークランド大学 他 (ニュージーランド)	英語でニュージーランド文化、教育、幼児教育について学び、オークランド幼稚園協会の紹介を受けた幼稚園で1週間の実地研修、フィールド学修を行います。
	プトラ大学 他 (マレーシア)	4週間の英語研修に加えて、多民族社会マレーシアで多文化教育や開発教育、自然環境、開発経済などに関する講義を受け、フィールド学修を行います。

交換留学生との交流

本学部には、世界各国から多くの留学生が来ています。約25か国50協定校からは、関連する大学院国際文化学研究所・人間発達環境学研究所を合わせて年間約80名の交換留学生を受け入れています。本学部キャンパスにおいて、留学生と共に学びながら、様々な異文化に触れることができるのです。また、本学部では在在学生によるチューター組織があり、留学生の来日時の諸手続き・学修・日常生活などのサポートを行っています。留学生とのパーティーや淡路島ショートトリップなどの公式行事や、ハイキング・花見・紅葉狩り・六甲祭出店など様々な自主イベントの企画・運営も行います。これらの交流活動を通して広い世界を知り、体験し、飛躍する力を身につけることができます。



主な協定校

国・地域	教育研究機関
中国 China	北京外国語大学 北京師範大学 華東師範大学 中央民族大学 南京大学 中国人民大学 上海交通大学 香港大学 清華大学 武漢大学
モンゴル Mongolia	モンゴル国立大学
インドネシア Indonesia	ガジャマダ大学
韓国 Korea	中央大学校 済州大学校 釜山国立大学校 ソウル国立大学校
フィリピン Philippines	アテネオ・デ・マニラ大学 サンペーダ大学
台湾 Taiwan	国立政治大学 国立台湾大学
タイ Thailand	タマサート大学
ベトナム Vietnam	ベトナム国家大学ホーチミン市社会人文学部
オーストラリア Australia	カーティン大学 クイーンズランド大学 西オーストラリア大学 ウーロンゴン大学
カナダ Canada	ヒューロン・ユニバーシティ・カレッジ オタワ大学
アメリカ合衆国 United States	ニューヨーク市立大学クイーンズ・カレッジ ピッツバーグ大学 ジョージア大学 メリーランド大学 ユタ州立大学
ブラジル Brazil	ブラジリア大学
オーストリア Austria	FHヨアネウム応用科学大学 グラーツ大学
ベルギー Belgium	ヘント大学 ルーヴェン大学 サンルイ大学 ブリュッセル自由大学
フィンランド Finland	ヘルシンキ大学

国・地域	教育研究機関
ブルガリア Bulgaria	ソフィア大学
チェコ Czech Republic	カレル大学
フランス France	リール第3大学 レンヌ第1大学 グルノーブル・アルプ大学 パリ第2(パンテオン・アサス)大学 パリ・ディドロ(パリ第7)大学 パリ・ナンテール大学
ドイツ Germany	ベルリン自由大学 マルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテンベルク トリーア大学 ハンブルク大学 ライプツィヒ大学
イタリア Italy	ヴェネツィア大学 ナポリ東洋大学 ポローニャ大学 ポローニャ大学フォルリ校
オランダ Netherlands	ライデン大学
ニューカレドニア New Caledonia	ニューカレドニア大学
ノルウェー Norway	ベルゲン大学
ポーランド Poland	ヤゲウォ大学 ニコラウス・コペルニクス大学 ワルシャワ大学
ルーマニア Romania	バベシュ・ボヨイ大学
ロシア Russia	サンクトペテルブルク大学
スペイン Spain	バルセロナ自治大学 バルセロナ大学
スイス Switzerland	バーゼル大学
英国 United Kingdom	ロンドン大学アジア・アフリカ研究学院 マンチェスター大学 シェフィールド大学 バーミンガム大学 エセックス大学 ケント大学

* 協定校に関する最新情報は、<http://www.fgh.kobe-u.ac.jp/ja/node/59> をご覧ください。

学科紹介

Departments

Global Cultures

Human
Development
and Community

Environment
and Sustainability

Child Education

グローバル文化学科

発達コミュニケーション学科

環境共生学科

子ども教育学科



グローバル文化学科

Mission ミッション

国境を越えたコミュニケーションを推進できる
リーダーシップを備えた人材を養成する

本学科では、多文化間の境界を乗り越えるグローバル共生社会を実現するため、高度な外国語の運用能力とICT教育に基づく情報分析力や発信力を駆使して、異文化間のコミュニケーションと相互理解を率先して推し進め、多文化状況、文化交流、文化摩擦等をめぐるグローバルな課題の解決への道筋を社会に発信する能力をもつ人材を養成することを目標とします。この目標を達成するために、文化、社会、コミュニケーションを軸に「グローバル文化形成」「グローバル社会動態」「グローバル・コミュニケーション」の3つの教育研究の柱を置き、これらの切り口から人間社会における多様なグローバルイシューを解決する糸口を探していきます。

本学科が育成するグローバルな課題に関するリーダーシップを発揮できる人材は、現代社会の幅広い分野で求められています。卒業生の進路としては、海外展開の活発な製造業、マスコミ、情報通信業、金融業のほか、外務省・経済産業省や各都道府県などの国家・地方公務員、JICA・兵庫国際交流協会等の国際協力機関に加え、大学院進学等が考えられます。

Points 学びの特色

- 1 高い専門性とリーダーシップを備えた人材を養成する**
本学科の軸となる3つの柱「グローバル文化形成」「グローバル社会動態」「グローバル・コミュニケーション」、それぞれに対して教育プログラムを設定しています。各自の興味や将来の進路などの目的に応じて、教育プログラムの枠を超えた柔軟な授業の選択が可能です。
- 2 多彩な学際的カリキュラムを通して、専門的能力を身に付ける**
受入留学生を交えた国際共修授業はもとより、多彩な語学教育、長期の交換留学制度、国内外でのフィールドリサーチやインターンシップ等、多様なアクティブ・ラーニングを利用しながら、それぞれの専門的能力を修得できるカリキュラムを用意しています。さらに、卒業論文については「グローバル文化特別演習」を設定し、論文指導教員よりきめ細やかな指導を受けて学修成果の総仕上げを行います。
- 3 「留学したい」を後押しする、長期留学をサポートするカリキュラム**
選抜を経て協定大学に留学する交換留学プログラムでは、留学先で修得した授業の単位は神戸大学の単位として認定することができます。また、正規の留学中も、神戸大学に在学していますので、これらを上手く利用すれば、1年間の長期留学を含めても4年間で卒業することが可能です。

Programs グローバル文化学科が展開する3つのプログラム

- グローバル文化形成プログラム**
今日の世界に存在する多様な文化と価値観が、どのような過程を経て形成され、また相互の交流・摩擦・征服等を通じていかに変容してきたのかを正確に把握し、我が国との相互比較的な視点も交えた文化的理解ができる力を身に付けます。
- グローバル社会動態プログラム**
情報・資本・人・モノの活発な移動とともに社会が急速にグローバル化しているという現代的動態に焦点を当て、グローバル社会が直面する重要な諸課題を解決するために何が求められているのかを分析し、発信する能力を身に付けます。
- グローバル・コミュニケーションプログラム**
言語・感性によるコミュニケーションの可能性と問題点や、ICTを用いた多彩な情報の収集・分析・発信に関わる能力を育成し、これらの研究成果をグローバルな課題解決に活用する能力を身に付けます。

Curriculum

1年次

2年次

3年次

4年次

教養科目	情報基礎科目		健康・スポーツ関連科目		外国語		基礎教養科目		総合教養科目													
学部共通科目	GSP (10ページ)		グローバルイシュー概論		グローバルイシュー演習		GSP演習科目(オリエンテーション)		GSP(留学型GSコース・実践型GSコース・研修型GSコース)		GSP演習科目(リフレクション)											
	基礎・発展科目		[学部共通]基礎科目 初年次セミナー 情報リテラシー演習 協働型リーダーシップ論 異文化間教育論		[学部共通]発展科目 異文化コミュニケーション論 フィールドワーク基礎論 ソーシャルエンパワメント論 国際開発援助論(JICA)		[学部共通]基礎科目 国際コミュニケーション演習 TOEFL演習 グローバル共生社会論		[学部共通]発展科目 コミュニティ創成論 TOEIC演習 イタリア語入門 ロシア語入門 スペイン語入門 ラテン語入門		Academic Communication (英) Academic Writing (英) Academic Communication (独、仏、中、露) Academic Writing (独、仏、中、露) Cultures and Societies in Japan		日本語コミュニケーション フィールドワーク方法論 情報発信演習 プログラミング基礎演習 ESD演習									
共通科目	情報科学概論 グローバル・ヒストリー グローバル化と現代世界 Oxbridge English Summer Camp 1		先端科学社会文化論 (JAXA) 日欧比較セミナーI 日欧比較セミナーII Aspects of EU Culture and Society (Lecture) Aspects of EU Culture and Society (Seminar)		Lectures on Social Dynamics Lectures on Cultural Formations Lectures on Global Communication Oxbridge English Summer Camp 2 EUエキスパート人材養成プログラム特別講義		Oxbridge English Summer Camp 3 日欧比較セミナーIII															
学科専門科目	コア・展開科目		日本社会文化論 中国社会文化論 環大西洋文化論 文化政策論 文化人類学 現代社会理論 国際関係論 近現代社会思想論 現代IT入門 非言語コミュニケーション論 第二言語習得論 グローバル文化形成基礎演習A,B グローバル社会動態基礎演習A,B グローバルコミュニケーション基礎演習A,B		グローバル文化形成プログラム 日本歴史文化論 日本メディア文化論 日本文化交流論 日本思想文化論 近現代アート論 近現代文化言説論		グローバル社会動態プログラム 近現代政治思想論 ジェンダー社会文化論 メディア社会文化論 比較民族学		グローバルコミュニケーションプログラム コミュニケーション表現論 翻訳コミュニケーション論 音声コミュニケーション論 コミュニケーション比較論		アメリカ文化論 アメリカ社会論 東アジア政治社会論 オセアニア社会文化論 北アジア歴史社会論 東南アジア社会文化論		東南アジア政治文化論 ロシア・東アジア社会文化論 ヨーロッパ社会文化論 ヨーロッパ文化形成論 アートマネジメント論 東欧・ロシア社会文化論		英米テキスト文化論 近現代モード論 表象文化形成論 近現代表象文化論 視覚文化論 文化翻訳論		比較文化論 宗教文化論 科学技術文明論 グローバル文化形成基礎演習C,D グローバル文化形成発展演習A,B		グローバル文化形成発展演習C,D		グローバル文化特別演習	
							現代社会人類学 文化混交論 現代民族誌学		比較政治社会論 多文化政治社会論 近現代経済思想論 グローバル正義論		認知コミュニケーション論 コミュニケーション構造論 言語機能論 日本語・日本事情演習		平和構築論 比較政策論 越境社会学		グローバル社会動態基礎演習C,D グローバル社会動態発展演習A,B		グローバル社会動態発展演習C,D		グローバル文化特別演習			
							データマネジメント ITコミュニケーションデザイン 統計情報処理 社会システム科学				グローバル・イングリッシュ・ヒストリー グローバルコミュニケーション基礎演習C,D グローバルコミュニケーション発展演習A,B		グローバルコミュニケーション発展演習C,D		グローバル文化特別演習							

グローバル文化学科 教員紹介



グローバル文化形成

青島 陽子	准教授	歴史学、東欧・ロシア史
池上 裕子	准教授	第二次世界大戦後の美術史、現代アート
石田 圭子	准教授	美学、芸術論、表象文化論
板倉 史明	准教授	映画学
伊藤 友美	准教授	東南アジア地域研究、タイ、現代仏教、女性
井上 弘貴	准教授	政治理論、公共政策論、アメリカ政治思想史
岩本 和子	教授	フランス語圏文学、芸術文化論
王 柯	教授	近代思想史(中国の民族問題、民族主義と日中関係)
長 志珠絵	教授	日本近現代史、文化史、ジェンダー史、歴史認識
小澤 卓也	教授	中央アメリカ近現代史、食のグローバル・ヒストリーズ
辛島 理人	准教授	経済史、文化政策、日本・東南アジア関係
北村 結花	准教授	比較文学、比較文化
窪田 幸子	教授	文化人類学、先住民研究
昆野 伸幸	准教授	日本の思想の歴史的研究

坂本 千代	教授	フランス文化学、フランス文学
貞好 康志	教授	東南アジアの歴史・社会・文化の研究
Yaroslav Shulatov	准教授	国際関係史、日露関係
谷川 真一	教授	社会学、現代中国研究
塚原 東吾	教授	科学技術医学史、蘭学とEUテクノ政治学
寺内 直子	教授	民族音楽学、日本音楽史
遠田 勝	教授	比較文学、比較文化
西谷 拓哉	教授	アメリカ文学、アメリカ映画
野谷 啓二	教授	英米文学、キリスト教文化
萩原 守	教授	アジア史、アジア法制史
藤野 一夫	教授	音楽文化論、文化政策、アートマネジメント
松井 裕美*	講師	近現代西洋美術史、フランス美術史
山澤 孝至	准教授	西洋古典学、ギリシア・ラテン文学
松家 理恵	教授	イギリス文学・思想
吉田 典子	教授	フランス近代の美術と文学、社会文化史

※2018年10月1日着任予定

グローバル社会動態

青山 薫	教授	社会学、ジェンダー、移住・移民
石森 大知	准教授	文化人類学、オセアニア研究
市田 良彦	教授	社会思想史、フランス現代思想
上野 成利	教授	政治思想・社会思想史
梅屋 潔	教授	社会人類学、文化人類学、民俗学、宗教学
小笠原博毅	教授	カルチュラル・スタディーズ
岡田 浩樹	教授	文化人類学、異文化間関係、宇宙人類学
Gianluca Gatta	特命准教授	人類学、社会学、欧州地中海地域の移民問題
齋藤 剛	准教授	文化人類学、中東研究
坂井 一成	教授	EUの対外関係、移民・難民問題
阪野 智一	教授	比較政治学、現代イギリス政治
櫻井 徹	教授	法哲学
柴田 佳子	教授	文化人類学、カリブ/英国/北・中南米研究
廳 茂	教授	社会学、社会理論
中村 覚	教授	国際政治、中東政治、平和・安全保障
西澤 晃彦	教授	社会学、貧困、社会的排除、都市
朴 沙羅	講師	移民研究/レイシズム研究
安岡 正晴	准教授	現代アメリカ政治、比較公共政策

グローバル・コミュニケーション

Aaron Albin	講師	言語学、音声習得
大月 一弘	教授	インターネットやICT利用方法の研究
康 敏	教授	情報科学、教育学
清光 英成	准教授	ソーシャル・コンピューティング、データ管理、教育情報システム、社会情報システム
Cynthia Quinn	特任准教授	応用言語学
田中 順子	教授	第二言語習得理論、応用言語学
西田 健志	准教授	コミュニケーションのユニバーサルデザイン
林 良子	教授	音声学・外国語、異文化コミュニケーション
藤濤 文子	教授	翻訳理論
松本絵理子	教授	認知心理学、認知神経科学
水口志乃扶	教授	言語学
村尾 元	教授	社会システム科学、機械学習、人工知能
森下 淳也	教授	情報科学、マルチメディアデータ処理、データベース
湯浅 英男	教授	言語学、ドイツ語学、日本語学
米本 弘一	教授	修辞学(レトリック)



小澤 卓也 教授 中央アメリカ近現代史、食のグローバル・ヒストリーズ

日本の素晴らしい食文化は、海外から輸入されるたくさんの食材や食品によって支えられています。ラテンアメリカなどの遠い熱帯地域で生産されるコーヒーも、いまや日本の食卓において必要不可欠になってきました。自国ではほとんど生産できない嗜好品なのに、私たちは独特の香りや味わいの国際色豊かなコーヒーを比較的安い価格で楽しむことができるわけです。たとえばこのグローバル商品であるコーヒーを基軸に、多様な国家、地域、人々の相互作用の中で発展してきたコーヒー産業、またそれと密接な関係にあるコーヒー文化の特色について考察することで、「グローバルイゼーション」の功罪について具体的に理解することができます。私たちと一緒に、さまざまな「食」の視点から世界を読み解く知的挑戦をしてみませんか。



藤濤 文子 教授 翻訳理論

グローバル化が進展する中、私たちは日々翻訳に触れています。映画の字幕や海外ニュースの報道、そしてパソコンのマニュアルも翻訳されています。また日本のマンガやアニメは翻訳されて、海外で大人気です。しかし、ただ言語を変換しているだけではありません。翻訳は言語と文化の壁を超える創造的活動です。その意味で、翻訳は異文化間コミュニケーションと言えるでしょう。翻訳とは、ある歴史的・社会的文脈で産出された原文を、別の歴史的・社会的文脈で再産出する行為ですから、翻訳を決定する要因として、原文のジャンルや読者等だけではなく、受け入れ側の社会的要請や翻訳の送り手の意図にも注目する必要があります。そして、そのようにして作成された翻訳は、文化の差異の記録として興味深い分析材料となるのです。

Human Development and Community

発達コミュニティ学科

Mission ミッション

人間の発達とそれを支えるコミュニティの実現に取り組む人材を養成する

人間の多様な発達と、その発達を支えるコミュニティ(多様な人々が協働する社会)を実現するために必要な能力を身に付けた人材の養成を目指します。この目的を踏まえ、人間の心理的発達や身体的発達、表現や行動の機能発達など、人間の生涯全体に関わる課題解決を行うために必要な基礎的な専門教育を行う「発達基礎」、人間の多様な発達の相互関係に着目し、グローバル社会と個人をつなぐコミュニティに関する理論の構築と実践的な課題解決を行うために必要な専門教育を行う「コミュニティ形成」という2本の柱を設定しています。

Points 学びの特色

1 広い基礎知識を学び、学びの方向を定める

1年次は、概論等の講義を通じて人間の発達とコミュニティについての幅広い知識を得るとともに、専門的知識を学んでいく上で基礎となる科目を受講します。多くの科目の中から自らの関心に沿った履修を進め、学ぶ専門性と方向性を定めていきます。

2 教育プログラムを通して、高い専門性を身に付ける

2年次には、各自の関心や将来の進路などに応じて、5つの教育プログラムの中から1つを軸として選択します。各教育プログラムで開講される専門科目を選択して受講し、より高度な専門性を身に付けていきます。

3 国内外の海外研修、フィールドワークを通じて実践力・応用力を鍛える

専門科目の受講により高度な専門性を身に付けると同時に、国内外における活動を通じて実践的な問題解決能力を鍛えます。現場実践によって醸成した問題意識をより明確な課題設定へとつなげ、その解決に必要な具体的な手法を体系的・段階的に学びます。

Programs 発達コミュニティ学科が展開する5つのプログラム

社会エンパワメントプログラム

社会の様々な局面で生じる課題を発見する能力、エンパワメントに対する理解力、対人支援やコミュニティ支援に関する幅広い知識や技術を学び、社会エンパワメントを通してグローバル課題を解決へと導く専門的能力を身に付けます。

心の探究プログラム

人々の心の発達の諸相における課題を発見しその解決へと導くために、人の心とその発達を適切な方法で理解・測定する基礎的能力、現代社会の多様な支援ニーズへの対応方法についての実践的な専門的能力を身に付けます。

アクティブライフプログラム

人々が健康で活動的なライフスタイルを実現するために、人の心身や運動行動を理解・分析する基礎的能力、心身の健康やエイジング、スポーツ活動などに関わる実践的な専門的能力を身に付けます。

ミュージックコミュニケーションプログラム

人々の文化的で豊かな生活のため、芸術の実践と交流によって社会における多様な人々をつなぐ場を構築することを目指し、音楽の発信と受信について多面的に理解・探究する総合的能力、音楽の創造的実践的な専門能力を身に付けます。

アートコミュニケーションプログラム

人々の文化的で豊かな生活のため、芸術の実践と交流によって社会における多様な人々をつなぐ場を構築することを目指し、文化芸術の発信と受信について多面的に理解・探究する総合的能力、美術の創造的実践的な専門能力を身に付けます。

Curriculum

1年次

2年次

3年次

4年次

教養科目

情報基礎科目	健康・スポーツ関連科目	外国語	基礎教養科目	総合教養科目
--------	-------------	-----	--------	--------

GSP (10ページ)

グローバルイシュー概論	グローバルイシュー演習	GSP演習科目(オリエンテーション)		GSP(留学期GSコース)	実践型GSコース・研修型GSコース	GSP演習科目(リフレクション)
-------------	-------------	--------------------	--	---------------	-------------------	------------------

学部共通科目

基礎・発展科目

<p>[学部共通]基礎科目</p> <p>初年次セミナー 情報リテラシー演習 協働型リーダーシップ論 異文化間教育論</p>	<p>異文化コミュニケーション論 フィールドワーク基礎論 ソーシャルエンパワメント論 国際開発援助論(JICA)</p>	<p>[学部共通]発展科目</p> <p>国際コミュニケーション演習 TOEFL演習 グローバル共生社会論</p>	<p>[学部共通]基礎科目</p> <p>コミュニティ創成論</p>	<p>[学部共通]発展科目</p> <p>TOEIC演習 イタリ語入門 コリア語入門 スペイン語入門 ラテン語入門</p>	<p>Academic Communication (英) Academic Writing (英) Academic Communication (独、仏、中、露) Academic Writing (独、仏、中、露) Cultures and Societies in Japan</p>	<p>日本語コミュニケーション フィールドワーク方法論 情報発信演習 プログラミング基礎演習 ESD演習</p>	<p>English Presentation Skills English for Professional Purposes 途上国農村地域開発論</p>
外国語実習、インターンシップ実習、フィールドワーク実習、					日本語文法基礎、実践日本語基礎、日本語・日本文化基礎演習		

共通科目

発達コミュニティ概論	地域社会学	コミュニティ論	発達コミュニティ演習
------------	-------	---------	------------

学科専門科目

コア・展開科目

<p>からだの構造と機能 運動の巧みさの科学 運動とこころの科学 加齢の認知心理学 心理学の基礎と歩み 創造の発想とプロセス 社会教育計画論 エスノミュージコロジー 音楽文化史 人とアート論 文化政策論 発達心理学(中・高) 心の発達と教育</p>	<p>プログラム選択</p>	<p>社会エンパワメントプログラム</p> <p>健康心理学 スポーツプロモーション論 ミュージックプロジェクト実践</p>	<p>社会調査法 身体表現論 ミュージックセラピー</p>	<p>障害共生教育論 コミュニティ・ジェンダー論 青年心理学</p>	<p>家族の発達と病理 加齢の社会心理学 人と音楽</p>	<p>コミュニティとメディア ライフコースの心理学 包括支援システム論</p>	<p>ヘルスプロモーション ファッション文化論 ESD実践</p>	<p>社会教育課題研究 (リスクコミュニケーション論、ボランティア学習論、 ジェンダー問題学習論、障害共生教育論、自然共生地域支援論)</p>	<p>心理学的援助支援</p>	
		<p>心の探究プログラム</p> <p>心理学調査法 健康心理学 心理グローバルリサーチ ミュージックセラピー</p>	<p>心理学統計法 心理学実験法 心理学観察法 生理心理学</p>	<p>深層心理学 発達アセスメント 青年心理学 臨床心理学</p>	<p>認知発達心理学 児童の発達と学習 初等学校教育相談 公認心理師の職責</p>	<p>心理面接論 家族の発達と病理 加齢の社会心理学 包括支援システム論</p>	<p>心理学研究実践 臨床投影法 心理テスト法 ライフコースの心理学</p>	<p>人格心理学 人格心理学演習 臨床心理学演習 中等学校教育相談</p>	<p>ESD実践 福祉心理学 司法・犯罪心理学 産業・組織心理学</p>	<p>心理学的援助支援 関係行政論</p>
		<p>アクティブライフプログラム</p> <p>加齢の身体運動科学 環境保健学 スポーツプロモーション論 身体運動の文化史 身体表現論</p>	<p>障害共生教育論 心理学統計法 認知発達心理学 身体機能の適応 健康運動科学</p>	<p>身体運動のダイナミクス 運動方法学 精神生理学 公衆衛生学 身体マネジメント研究</p>	<p>トラック&フィールド実習 セーフティプロモーション論 加齢の社会心理学 自然体験活動実習 加齢の健康行動科学</p>	<p>スイミング& アクアティックスポーツ実習 コンテンツラリーダンス ボールゲームズ実習 包括支援システム論</p>	<p>コミュニティと音楽 身体運動科学実験 バイオメカニクス実験 JUDO実習 ジムナスティクス実習</p>	<p>ヘルスプロモーション 健康教育論 スポーツマネジメント スポーツコミュニティ形成論 社会教育課題研究(障害共生教育論)</p>	<p>ESD実践</p>	
		<p>ミュージックコミュニケーションプログラム</p> <p>アートマネジメント論 サウンドデザイン ミュージックセラピー 身体表現論</p>	<p>障害共生教育論 人と音楽 声の表現</p>	<p>ミュージックセオリー &アナリシス シアトリカル・アート論</p>	<p>ピアノ演奏演習 民族音楽演奏演習 声楽表現演習 コンテンツラリーダンス</p>	<p>音楽集団活動論 声楽アンサンブル 器楽アンサンブル 包括支援システム論</p>	<p>コミュニティと音楽 音楽作品研究 ミュージックプロジェクト実践</p>	<p>声楽伴奏表現演習 邦楽歌唱法 邦楽器演奏法 社会教育課題研究(ボランティア学習論)</p>	<p>ESD実践</p>	
		<p>アートコミュニケーションプログラム</p> <p>知覚と行為 アートマネジメント論 コミュニティと表象 空間造形論</p>	<p>絵画アート論 身体表現論 都市と建築の20世紀</p>	<p>グラフィックサイエンス 空間アート実践 絵画アート実践 コンテンツラリーダンス</p>	<p>近現代文化言説論 近現代モード論 近現代アート論 コミュニティと音楽</p>	<p>表象文化形成論 視覚文化論 包括支援システム論</p>	<p>コミュニティとメディア コミュニティと都市 ファッション文化論 アフォーダンス論演習</p>	<p>芸術批評演習 アートプロジェクト実践 幾何デザインと視覚伝達 社会教育課題研究(ボランティア学習論)</p>	<p>ESD実践 映像・メディア論演習</p>	

卒業研究



社会エンパワメント

稲原 美苗	准教授	ジェンダー理論、現象学、臨床哲学
清野未恵子	准教授	自然共生社会、野生動物管理、ESD
津田 英二	教授	生涯学習論、障害共生支援論
松岡 広路	教授	生涯学習論、福祉教育・ボランティア学習論
村山留美子	准教授	環境保健学、環境リスク学
大田美佐子*	准教授	西洋音楽史、音楽美学
岡崎 香奈*	准教授	音楽療法、即興演奏
平芳 裕子*	准教授	表象文化論、ファッション文化論
吉田 圭吾*	教授	臨床心理学、スクールカウンセリング

*他プログラムとの兼任

心の探究

相澤 直樹	准教授	臨床心理学、臨床心理検査(投影法)
伊藤 俊樹	准教授	臨床心理学、芸術療法
加藤 佳子	教授	健康心理学、健康教育
河崎 佳子	教授	臨床心理学、発達臨床心理学
齊藤 誠一	准教授	生涯発達心理学、思春期心理学、災害心理学
坂本 美紀	教授	教育心理学
谷 冬彦	准教授	人格心理学
鳥居 深雪	教授	発達障害臨床学
林 創	准教授	発達心理学、教育心理学
古谷 真樹	准教授	睡眠心理学、生理心理学、健康心理学
山根 隆宏	准教授	発達臨床心理学、発達障害児家族支援
吉田 圭吾	教授	臨床心理学、スクールカウンセリング

アクティブライフ

秋元 忍	准教授	体育・スポーツ史
岡田 修一	教授	加齢の身体運動科学
片桐 恵子	准教授	社会心理学、社会老年学
河辺 章子	教授	運動生理学(身体運動制御)
木村 哲也	准教授	身体システム学、応用生理学、バイオメカニクス
近藤 徳彦	教授	応用生理学、運動生理学、環境生理学
佐藤 幸治	准教授	スポーツ生理・生化学
高田 義弘	准教授	運動生理学(身体コンディショニング)
高見 和至	教授	運動心理学
長ヶ原 誠	教授	スポーツ振興論、国際スポーツ文化論、加齢発達論
中村 晴信	教授	公衆衛生学、生理人類学
原田 和弘	准教授	老年行動学
前田 正登	教授	スポーツ技術論、スポーツバイオメカニクス、スポーツ工学
増本 康平	准教授	高齢者心理学、実験心理学、認知心理学
古谷 真樹*	准教授	睡眠心理学、生理心理学、健康心理学
村山留美子*	准教授	環境保健学、環境リスク学

*他プログラムとの兼任

ミュージックコミュニケーション

大田美佐子	准教授	音楽文化史、音楽美学
岡崎 香奈	准教授	音楽療法、即興演奏
谷 正人	准教授	民族音楽学、イラン伝統音楽
田村 文生	准教授	作曲、編曲、西洋芸術音楽を中心とした作品研究
坂東 肇	教授	器楽(ピアノ、室内楽)

アートコミュニケーション

梅宮 弘光	教授	近代建築史
小高 直樹	教授	感性科学、図形科学
岸本 吉弘	准教授	絵画の創作と研究
関 典子	准教授	舞踊学、コンテンポラリーダンスの創作と研究
田畑 暁生	教授	社会情報学、映像論
野中 哲士	准教授	認知科学、生態心理学
平芳 裕子	准教授	表象文化論、ファッション文化論



林 創 准教授 発達心理学、教育心理学

心理学は、心の働きを解き明かす学問です。私の研究室では、発達と教育の観点から研究を進めています。たとえば、私たちは他者の気持ちを読み取ろうとします。そして、他者が大事な情報を知らないとわかれば、「嘘」をつくこともあるでしょう。しかし、嘘は利己的なものばかりではなく、相手を守るために嘘をつくこともあります。こうした嘘は幼児には難しく、小学生になると発達が進みます。したがって、嘘はネガティブなものではなく、心の発達の程度をあらわす目印として考えることもできるのです。このように、心理学を学ぶことで、人の心の働きやその意味を深く知ることができ、社会も円滑になっていくことでしょう。みなさんと学べるのを楽しみにしています。



佐藤 幸治 准教授 スポーツ生理・生化学

私は運動生理・生化学を専門にしており、運動でなぜメタボリックシンドロームが予防し、改善するのかを体の中の血液、唾液、尿および筋肉や心臓等の組織中のタンパク質、遺伝子を解析して、どのような運動が良いのか、どれくらいの運動頻度や強度が良いかの研究をしています。私自身は、小児期に発症する1型糖尿病患者さんに起こる様々な問題を運動によって解決する為に、遺伝子やタンパク質レベルで研究を行っています。また、私の研究室では、肥満や2型糖尿病のモデルラットの組織中のタンパク質活性の測定を行い、新たな運動療法、予防法を開発しています。海外の大学とも共同研究を行っており、幅広い視野で、行動力のある皆さんをお待ちしております。



環境共生学科

Mission ミッション

グローバル共生社会を支える環境を創り出す
文理融合型人材を養成する

人間と環境の調和に根ざす持続可能なグローバル共生社会の実現を目指し、身近な環境から地球環境に至る幅広い環境について、様々な問題を発見・立論し、解決に導くために必要な能力を有し、さらに、国際的な視野から課題に取り組み行動力を身に付けた人材を養成します。この目的を踏まえ、本学科は、環境の成り立ちを解析し、課題を発見・立論するために必要な基礎科学の専門教育を行う「環境基礎科学」、環境改善のための技術・システム、政府・自治体の政策、教育と市民参加、企業・NPO・NGO等の活動に関する専門教育を行う「環境形成科学」という2本の柱を設定しています。

Points 学びの特色

- 1 広い基礎知識を学び、学びの方向を定める**
1年次は、概論等の講義を通じて環境共生学についての幅広い基礎知識を得るとともに、専門的知識を学んでいく上で基礎となる科目を受講します。多くの科目の中から自らの関心に沿った履修を進め、学ぶ専門性と方向性を見定めていきます。
- 2 教育プログラムを通して、高い専門性を身に付ける**
2年次には、各自の関心や将来の進路など目的に応じて、4つの教育プログラムの中から1つを軸として選択します。各教育プログラムで開講される専門科目を受講し、より高度な専門性を身に付けていきます。
- 3 海外研修、フィールドワークを通して、エキスパートとしての実践力・応用力を鍛える**
専門科目の受講に加え、国内外でのフィールドワーク、多彩な調査、最先端の科学実験などにより高度な専門性を身に付けると同時に、多様な環境改善プロジェクトやNPO・NGO等の環境関連活動への参加を通じて、実践的な問題解決能力を培います。

Programs 環境共生学科が展開する4つのプログラム

- 環境自然科学プログラム**
地球規模の環境問題を引き起こす多様な要因や問題が顕在化するまでの複雑なメカニズムを解明し、解決策を提案するために、自然の成り立ちや法則の理解を基礎として、フィールドワーク・科学実験・データ解析などの調査・分析・解析手法について学びます。
- 環境数理科学プログラム**
環境に潜む様々な現象を数理的な手法で解明し、人間と環境のよい共生関係を論理的かつ緻密にデザインするために、数理科学に関する基礎知識を身に付け、諸問題に対する新しい分析方法について学びます。
- 生活共生科学プログラム**
日常生活における人と人、人と環境のよりよい共生関係をデザインするために、フィールドワーク、各種調査、科学実験の基礎的な技能を身に付け、幅広い問題を発見・立論するとともに、課題解決に向け、実践的な技術開発、環境設計、政策立案について学びます。
- 社会共生科学プログラム**
文化・政治・経済・社会・地域等における様々な対立を乗り越えるために、グローバル社会における共生のあるべき姿を考えます。身近な環境からグローバルな環境に至る様々な課題を発見し、その原因と解決について学びます。国内外でのフィールド調査・文献調査を通して、実践力を身に付けます。

Curriculum

		1年次	2年次		3年次		4年次			
教養科目	情報基礎科目	健康・スポーツ関連科目	外国語	基礎教養科目	総合教養科目					
	GSP (10ページ)	グローバルイシュー概論 グローバルイシュー演習	GSP演習科目(オリエンテーション)		GSP(留学型GSコース)	実践型GSコース・研修型GSコース	GSP演習科目(リフレクション)			
学部共通科目	基礎・発展科目	[学部共通]基礎科目 初年次セミナー 情報リテラシー演習 協働型リーダーシップ論 異文化間教育論	[学部共通]発展科目 異文化コミュニケーション フィールドワーク基礎論 ソーシャルエンパワメント論 国際開発援助論(JICA)	[学部共通]基礎科目 国際コミュニケーション演習 TOEFL演習 グローバル共生社会論	[学部共通]発展科目 コミュニティ創成論 TOEIC演習 イタリア語入門 コリア語入門 スペイン語入門 ラテン語入門	Academic Communication (英) Academic Writing (英) Academic Communication (独、仏、中、露) Academic Writing (独、仏、中、露) Cultures and Societies in Japan	日本語コミュニケーション フィールドワーク方法論 情報発信演習 プログラミング基礎演習 ESD演習	English Presentation Skills English for Professional Purposes 途上国農村地域開発論		
		外国語実習、インターンシップ実習、フィールドワーク実習、		日本語文法基礎、実践日本語基礎、日本語・日本文化基礎演習						
学科専門科目	共通科目	環境共生学概論	地球環境学							
	基礎・コア・展開科目	物理学入門 力学基礎 電磁気学基礎 連続体力学基礎 熱力学基礎 量子力学基礎 相対論基礎 物理学実験 基礎無機化学 基礎有機化学 生物学概論 生物学各論 基礎地学 市民科学教育論	線形代数入門 線形代数 微分積分入門 微分積分 数理統計 情報科学 法学 経済学 政治学 人文地理学 社会学 倫理学 外国史 日本史	環境自然科学プログラム 環境物理学 環境物質科学 環境生命科学 環境地球科学 環境基礎科学実験	統計的問題解決法 計算機科学入門 数理モデルプログラミング 数理科学入門 数理科学基礎	宇宙環境物理学 環境無機化学 環境数値解析 大気環境学	環境インフォマティクス 生物多様性科学 環境資源植物科学 スマート・ライフサイエンス	生態学 環境生命化学 環境生理学 分子生物学 野外生物学実習	環境応用科学実験 環境基礎物理学 地球環境物理学 環境地球化学 環境高分子化学	地球環境変動史 環境基礎科学演習 多変量解析 実験計画法
			環境数理科学プログラム 数理科学基礎 数理科学入門 統計的問題解決法 計算機科学入門	数理モデルプログラミング 環境物理学 環境物質科学 環境生命科学	環境地球科学 環境社会学 公害・環境史	環境数値解析 アプライアンス環境論	環境システム設計論 環境インフォマティクス	数理科学研究 複雑系の幾何学 多変量解析 実験計画法	計算代数 環境モデル解析 環境基礎科学演習 情報数理	
			生活共生科学プログラム 環境経済学 グローバル都市地域論 地域環境資源論 生活空間計画論	緑地環境論 高齢者環境論 こども環境論 環境社会学	公害・環境史 ライフスタイル論 環境システム設計論 合意形成プロセス論	アプライアンス環境論 スマート・ライフサイエンス 環境政策論 地域景観生態論	衣環境論 食環境論 住環境論	福祉環境システム論 地域空間システム論 地域社会共生論	環境形成科学調査法 環境形成科学実験 環境形成科学演習 環境形成科学実習	
			社会共生科学プログラム 地域環境資源論 生活空間計画論 緑地環境論 ライフスタイル論	高齢者環境論 こども環境論 環境社会学 環境思想史	公害・環境史 環境経済学 グローバル開発政策論 グローバル都市地域論	環境政策論 地域景観生態論	社会環境変動史 社会文化環境論 グローバル平和論 グローバル経済環境史 環境法	国際環境法 労働環境史 地域空間システム論 地域社会共生論 地域復興政策論	福祉環境システム論 フィールドワーク実習 環境形成科学演習	

卒業研究



環境自然科学

- | | | |
|-------|-----|----------------|
| 青木 茂樹 | 教授 | 素粒子・宇宙線物理学 |
| 蘆田 弘樹 | 准教授 | 光合成酵素、代謝制御学 |
| 伊藤 真之 | 教授 | 宇宙物理学、科学教育 |
| 丑丸 敦史 | 教授 | 植物生態学、生物多様性科学 |
| 江原 靖人 | 准教授 | 生物有機化学 |
| 大串 健一 | 准教授 | 地球環境、環境地学 |
| 近江戸伸子 | 教授 | 植物環境バイオテクノロジー |
| 佐藤 春実 | 教授 | 高分子化学、高分子振動分光学 |
| 高見 泰興 | 准教授 | 進化生態学 |
| 田中 成典 | 教授 | 計算生物学、理論生命科学 |
| 谷 篤史 | 准教授 | 環境物性物理学 |
| 寺門 靖高 | 教授 | 環境地球化学 |
| 源 利文 | 准教授 | 水域生態学、環境生理学 |

環境数理科学

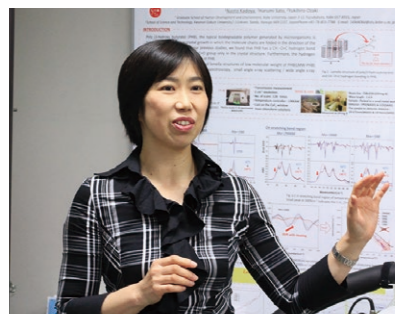
- | | | |
|-------|-----|-------------------|
| 稲葉 太一 | 准教授 | 数理統計学、応用統計学、データ解析 |
| 桑村 雅隆 | 教授 | 応用解析学 |
| 阪本 雄二 | 准教授 | 数理統計学 |
| 高橋 真 | 教授 | 情報論理学 |
| 長坂 耕作 | 准教授 | 計算機代数、計算機科学 |
| 宮田 任寿 | 教授 | 幾何学的トポロジー |

生活共生科学

- | | | |
|-------|-----|--------------------------|
| 井上 真理 | 教授 | 衣環境学、感性工学 |
| 大野 朋子 | 准教授 | 緑地環境学、造園学 |
| 佐藤 真行 | 准教授 | 環境経済学 |
| 白杉 直子 | 教授 | 食環境学 |
| 田畑 智博 | 准教授 | サステナビリティ評価論(環境・都市・エネルギー) |
| 平山 洋介 | 教授 | 生活空間計画 |
| 福田 博也 | 准教授 | 生体電子計測、ヒューマンエレクトロニクス |
| 矢野 澄雄 | 教授 | 振動工学、バイオメカニクス |

社会共生科学

- | | | |
|-------|------|----------------------|
| 浅野 慎一 | 教授 | 社会文化環境論、社会学 |
| 井口 克郎 | 准教授 | 社会保障、福祉国家、災害被災者の生活問題 |
| 岩佐 卓也 | 准教授 | 社会政策 |
| 太田 和宏 | 准教授 | 途上国政治経済 |
| 岡田 章宏 | 教授 | 基礎法学 |
| 澤 宗則 | 教授 | 人文地理学、地域社会論 |
| 橋本 直人 | 准教授 | 社会思想、社会学史 |
| 古川文美子 | 特命助教 | 地域資源保全 |
| 山崎 健 | 教授 | 都市地理学 |



佐藤 春実 教授 高分子化学、高分子振動分光学

微生物によって分解される生分解性プラスチックは、環境に優しい次世代のプラスチックとして期待されており、持続可能な社会の構築のために、さらなる市場の拡大が求められています。私の研究室では、これらの生分解性プラスチックを中心に、材料の性質を向上させるための基礎研究に取り組んでおり、世界の多くの研究者と協力して研究を進めています。このような環境に関わる問題に取り組むためには、多様な分野の知識が必要で、一つの視点からではなく様々な方向から考えることが求められます。環境自然科学プログラムでは多岐にわたる分野について学び、幅広い知識と視野を持って、ものごとをまとめ上げる力を持った人材を育ててきたいと考えています。



岩佐 卓也 准教授 社会政策

私の専門は労働問題です。みなさんは、やがて働くことになる人がほとんどだと思います。それは生活のため賃金をもらう必要があるからだけではないでしょう。働くことを通じて人の役に立ったり、自分が成長できることは大きな喜びです。しかし働くことをめぐってはさまざまな問題が生じてしまうこともまた事実です。働き続けたいのにクビになった、頑張っても生活できる賃金が足りない、ハラスメントを受けている等々、ある程度までは我慢できても限界があります。ではそうした問題はなぜ生じるのでしょうか。会社の社長が「悪人」だからでしょうか。それとももっと大きな背景があるからでしょうか。そして、これらの問題をどうしたら解決できるのでしょうか。そうした問題について、諸外国の実態と比較なども行いながら研究しています。

子ども教育学科

Mission ミッション

現代社会の文化的多様性を尊重した
子ども教育に取り組む人材を養成する

次世代育成を通じたグローバル共生社会の実現を目指し、グローバル社会に関わる幅広い視野を持ちながら、子どもと学校が抱える課題を多面的に認識し、実践的に解決していく能力を身に付けた初等教育教員等を養成します。この目的を踏まえ、本学科では、初等教育を構成する「学校教育学」と「乳幼児教育学」の2つのコースを設け、世界と日本の学校教育、国際文化理解教育など、グローバル共生社会の実現に向けた教育の現状と課題について理解を深めた後、コースごとの体系的な教育研究を行っていきます。

Points 学びの特色

- 幅広い基礎知識を得て方向性を選択する**
1年次は、概論等の講義を通じ、未来のグローバル共生社会を創り出す子どもの教育について原理的諸側面と教科的諸側面を中心に、多角的な知見と探究方法論を修得し、基礎的な能力を身に付けます。同時に、幅広い専門科目の中から自らの関心に沿った履修を進め、学ぶ専門性と方向性を見定めていきます。
- コースごとの学修を通して、高い専門性を身に付ける**
2年次に、将来の進路など目的に応じて、2つのコースから1つのコースを選択します。それぞれのコースで開講される専門科目を受講し、より高度な専門性を身に付けていきます。
- 理論と実践の往還を通して、エキスパートとしての実践力・応用力を鍛える**
大学での専門科目の受講によって身に付けた高度な専門性を、附属学校園を含む国内外の学校現場での教育実習やインターンシップの経験と連関させ、初等教育教員としての実践的指導力、子どもの教育を学問的に探究するための研究能力を鍛えます。

Courses 子ども教育学科が展開する2つのコース

学校教育学コース
主に教育学、教科内容・指導論、心理学の専門性に基づいて、義務教育の基盤である小学校を中心とした教育理念、制度、教育内容と方法に関する教育研究を行います。あわせて、インクルーシブ教育の観点から、障害のある子どもに対する特別支援教育に関する教育研究を行います。

乳幼児教育学コース
主に教育学、保育内容・指導論、心理学の専門性に基づき、生涯にわたる人格形成の基盤である乳幼児期を中心とした教育理念、制度、保育内容と方法に関する教育研究を行います。あわせて、幼小連携教育の観点から、小学校教育の内容と方法等に関する教育研究を行います。

Curriculum

		1年次	2年次	3年次	4年次				
教養科目	情報基礎科目	健康・スポーツ関連科目	外国語	基礎教養科目	総合教養科目				
	GSP (10ページ)	グローバルイシュー概論 グローバルイシュー演習	GSP演習科目(オリエンテーション)	GSP(留学型GSコース・実践型GSコース・研修型GSコース)	GSP演習科目(リフレクション)				
学部共通科目	基礎・発展科目	[学部共通]基礎科目 初年次セミナー 情報リテラシー演習 協働型リーダーシップ論 異文化間教育論	[学部共通]発展科目 異文化コミュニケーション フィールドワーク基礎論 ソーシャルエンパワメント論 国際開発援助論(JICA)	[学部共通]基礎科目 国際コミュニケーション演習 TOEFL演習 グローバル共生社会論	[学部共通]発展科目 コミュニティ創成論 TOEIC演習 イタリヤ語入門 コリア語入門 スペイン語入門 ラテン語入門				
	共通科目	子ども教育学概論 保育原理(世界と日本の乳幼児教育)	国際文化理解教育論 教育原理(世界と日本の学校教育)	子ども教育学演習	子ども教育学演習				
学科専門科目	コア・展開科目	教職論(小) 教師入門 教育経営学(幼・小) 発達心理学(幼・小) 初等算数論 初等図工論 乳幼児心理学 保育内容研究(造形表現) 保育内容研究(音楽表現) 保育内容研究(児童文化と言葉) 乳児心理学演習 観察実習I	学校教育学コース 児童の発達と学習 教育行政学(幼・小) 初等カリキュラム論 初等道德教育論 初等教育方法学 初等国語科教育論 初等理科教育論 初等生活科教育論 初等算数科教育論 初等音楽科教育論 初等体育論	乳幼児教育学コース 乳幼児教育課程論 初等体育論 初等国語論 初等音楽論 保育内容研究(健康I) 保育内容研究(環境) 保育内容研究(人間関係) 保育内容研究(健康II)	初等英語論 日本教育史 発達障害心理学 臨床発達支援学 障害とリハビリテーション 障害児発達学 グローバル教育演習(教育行政学) グローバル教育演習(教育制度) グローバル教育演習(科学教育) グローバル教育演習(教育方法学) グローバル教育演習(教育史学)	初等特別活動指導論 初等生徒指導論(進路指導を含む) 初等社会科教育論 初等家庭科教育論 初等学校教育相談 初等教育事前・事後指導 初等教育実地研究 学校インターンシップII 科学教育実践研究 総合学習教育論	比較教育システム論 西洋教育思想史 比較教育政策論 グローバル教育演習(子どもの保健) グローバル教育文献演習 社会認識実践研究 数理認識実践研究 英語科実践研究 特別支援教育総論 発達障害と共生社会	発達障害教育論 知的障害支援学 障害児支援学概論 肢体不自由児教育論 教育・保育実践演習(児童文学) 教育・保育実践演習(音楽表現) 教育・保育実践演習(造形表現) 教育・保育実践演習(家庭保育) 支援教育臨床学	教職実践演習(幼・小) 学校インターンシップIII 教育・保育実践演習(乳幼児教育)
	コース選択			幼児心理学演習 グローバル教育演習(教育行政学) グローバル教育演習(教育制度) グローバル教育演習(科学教育) グローバル教育演習(教育方法学) グローバル教育演習(教育史学) 子どもと家庭	乳幼児教育内容・方法論 乳幼児臨床心理学 子どもの保健と健康 初等教育事前・事後指導 初等教育実地研究 学校インターンシップII 比較教育システム論 西洋教育思想史	比較教育政策論 グローバル教育演習(子どもの保健) グローバル教育文献演習 科学教育実践研究 社会認識実践研究 数理認識実践研究 英語科実践研究 初等学校教育相談	教育・保育実践演習(児童文学) 教育・保育実践演習(音楽表現) 教育・保育実践演習(造形表現) 教育・保育実践演習(家庭保育) 社会的養護 障害児保育演習 子ども家庭支援論 発達障害教育論	教職実践演習(幼・小) 学校インターンシップIII 教育・保育実践演習(乳幼児教育) 社会的養護内容演習	

卒業研究



学校教育学コース／乳幼児教育学コース

教員は両コースを担当します

赤木 和重	准教授	発達障害心理学	中谷奈津子	准教授	保育学、家族関係学
稲垣 成哲	教授	科学教育	長谷川 諒	特命講師	音楽教育学、音楽教育哲学
岡部 恭幸	教授	数理認識論、数学教育	船寄 俊雄	教授	日本教育史、教育学
奥山 和子	講師	日本語教育、留学生教育、異文化間教育	目黒 強	准教授	児童文学、国語教育
川地亜弥子	准教授	教育方法学	山口 悦司	准教授	科学教育
北野 幸子	准教授	乳幼児教育学、保育学	山下 晃一	准教授	教育制度論
木下 孝司	教授	発達心理学	山根 隆宏	准教授	発達臨床心理学、発達障害児家族支援
國土 将平	教授	身体発育発達、保健体育科教育、健康・スポーツ測定	吉永 潤	教授	社会認識教育論
勅使河原君江	准教授	美術教育	渡部 昭男	教授	教育行政学(地域教育学、特別ニーズ教育)
鳥居 深雪	教授	発達障害臨床学	渡邊 隆信	教授	西洋教育史、教育哲学



川地 亜弥子 准教授 教育方法学

教育方法学は、すべての子ども・青年のための学びの場を、どのように構築するかを研究する学問です。貧困等による学びからの排除の克服、多様性への寛容の育成、子ども・青年が「私も大切にされている」と感じられるような学びの創造等、さまざまなグローバルイシューに挑戦しています。神戸大学はその前身から数えると140年以上の教員養成の歴史があり、附属学校も早くから海外の教育理論に学び、ユニークな実践を行ってきました。史資料も充実しています。国内外の理論に学び、現場へ行って考察を深め、成長する子どもに伴走できる「成長し続ける教師・専門家」を目指したい人—一緒に未来の学びをつくっていきませんか？

インフォメーション Information

- キャンパス紹介
- 募集人員
- 取得可能な資格免許
- 学生生活支援
- アクセス



キャンパス紹介

TSURUKABUTO CAMPUS 1 鶴甲第1キャンパス

グローバル文化学科



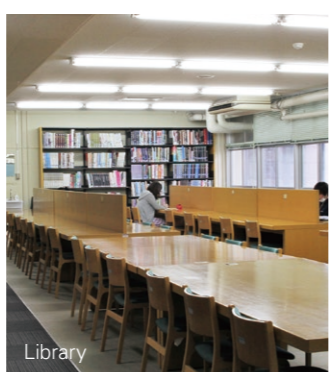
Intercultural Cafe

TSURUKABUTO CAMPUS 2 鶴甲第2キャンパス

発達コミュニティ学科

環境共生学科

子ども教育学科



Global Human Science Cafe

ラーニングcommons

Learning Commons

ラーニングcommonsとは、学生や教職員が自由に利用できる創造的学習のためのスペースです。教室とは異なるオープンな場であり、学生が自由に入出入りして多様な人と交流しつつ、学問の垣根を超えた議論を通じて、開かれた協同の学びを実践する場であることをコンセプトとしています。国際人間科学部には、鶴甲第1キャンパスに4箇所、鶴甲第2キャンパスに4箇所のラーニングcommonsが設置され、学生同士が話し合いながら行うグループ学習や、ゼミ・発表の準備、プレゼンテーションの練習などに活用されています。

図書館

Library

神戸大学附属図書館は、各学部・研究科の研究領域をサポートする専門図書館と、総合図書館の合計9つの図書館から構成されます。国際人間科学部では、鶴甲第1キャンパスには総合・国際文化学図書館、鶴甲第2キャンパスには人間科学図書館が設置されています。

キャリアセンター

Career Center

国際人間科学部では、所属する学生一人ひとりのキャリア形成を積極的に行っていきます。学部がおかれる2つの各キャンパス(鶴甲第1キャンパス、鶴甲第2キャンパス)には、学生のキャリア形成を支援するアドバイザーが常駐するセンターをそれぞれ設置しており、学生が自らの専門性をどのように社会に生かしていくかを考え、そのために必要な学びや行動を実施していく過程を支援します。各センターでは、1年生から4年生まですべての学生を対象として、キャリア形成支援のための様々なセミナー等の開催を実施しています。

GSPオフィス

GSP Office

GSPオフィスは、GSPの学修全般をサポートする部門です。GSPオフィスでは、海外研修やフィールド学修の豊富な経験をもつコーディネーターが常駐しており、学生一人一人がGSPの各科目を効果的に学修し、GSPの目的を達成できるよう、専門のコーディネーターが学業と海外生活の両面についてアドバイスします。

交流スペース

[Intercultural Cafe]
[Global Human Science Cafe]

EXchange Space

2つのキャンパスには、学生同士が活発に交流できるスペースとして、それぞれ「Intercultural Cafe」(鶴甲第1キャンパス)、「Global Human Science Cafe」(鶴甲第2キャンパス)が置かれています。特に、毎年、世界各国から多くの留学生が学ぶ国際人間科学部では、これらのスペースの利用やそこで実施される行事への参加を通じて、様々な文化的背景を持つ学生と交流し、多種多様な世界の文化に触れ、理解を深めています。

2019年度学生募集人員

学科	入学定員	一般入試		AO入試	「志」入試	推薦入試	社会人入試	私費外国人留学生入試
		前期日程	後期日程					
グローバル文化学科	140名	95名	35名	—	—	10名	—	若干名
発達コミュニティ学科	100名	54名	10名	スポーツ科学受験 12名 音楽受験 12名 美術受験 8名 身体表現受験 4名	—	—	若干名	若干名
環境共生学科	80名	文系23名 理系30名	文系8名 理系9名	研究実績受験 2名 理数系科目受験 3名	5名	—	若干名	若干名
子ども教育学科	50名	39名	11名	—	—	—	若干名	若干名

取得可能な資格免許

学科	取得可能な資格	取得可能な免許
グローバル文化学科	学芸員	中学校教諭一種(英語) 高等学校教諭一種(英語)
発達コミュニティ学科	学芸員 社会教育主事 社会福祉主事任用資格 公認心理師受験資格(注1)	中学校教諭一種(保健体育、音楽、美術) 高等学校教諭一種(保健体育、音楽、美術)
環境共生学科	学芸員 社会教育主事 社会福祉主事任用資格	中学校教諭一種(理科、数学、家庭、社会) 高等学校教諭一種(理科、数学、家庭、地理歴史、公民)
子ども教育学科	学芸員 社会教育主事 社会福祉主事任用資格	幼稚園教諭一種 小学校教諭一種 特別支援学校教諭一種

(注1)「心の探究プログラム」を選択する学生が主。受験資格取得には、卒業後に大学院で公認心理師科目を修得するか、一定期間の実務経験が必要です。

学生生活支援

神戸大学では、充実した学生生活をサポートするために様々な制度を用意しています。
詳細については、神戸大学ウェブサイトの「教育・学生生活」(<http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife>)をご覧ください。

■奨学金

本学には、独立行政法人日本学生支援機構・民間奨学団体・地方公共団体及び神戸大学独自の奨学金などの多様な奨学金制度があります(各奨学金には、卒業後、返還義務のある「貸与」と返還義務のない「給与」とがあります)。また、奨学金制度以外に、入学金免除、授業料免除(全額免除・半額免除)の制度があります。

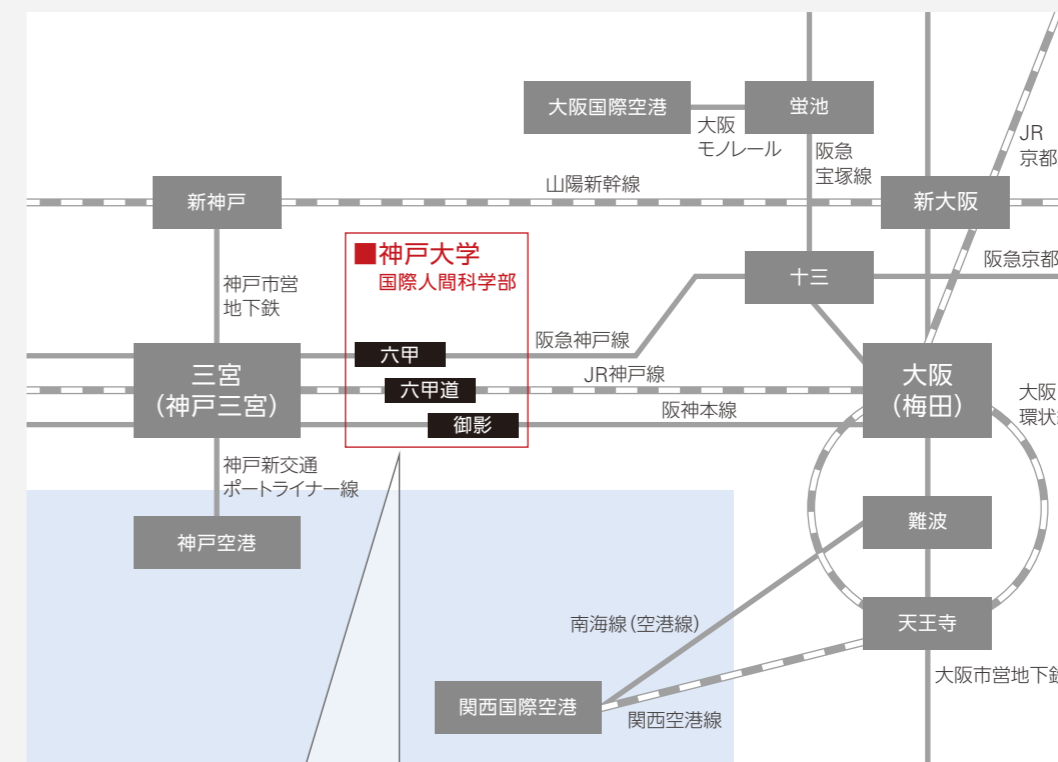
■学生寮

本学では、修学に適する良好な環境を提供するため、学生寮を設置しています。学生寮は、男子学生用に「住吉寮」「住吉国際学生宿舎」「国維寮」「白鷗寮」、女子学生用に「女子寮」「住吉国際学生宿舎」「国維寮」「白鷗寮」があります。経済的負担が軽く、学年を超えた多様な学生との集団生活が体験できること、また「女子寮」を除き、日本人学生と留学生の混在型となっており、国際的な交流ができることもメリットです。

■健康

保健管理センターにおいて、健康診断を実施し、心身の健康に関するあらゆる相談を受け付けています。「からだの健康相談」では医師が、健康診断の結果や日常の健康に関する様々な相談を受け付けるほか、学内における救急処置に対応しています。また、「こころの健康相談」ではカウンセラー及び医師が、様々な悩みや心配、心身の状態について相談を受けています。相談の内容によっては、両方を同時に受診して、心身の悩みに総合的に対応できる体制が取られています。

Access アクセス



■最寄り駅からのアクセス

【最寄り駅】
阪急電車「六甲」駅、JR「六甲道」駅
または阪神電車「御影」駅

【鶴甲第1キャンパス】
神戸市バス16系統または106系統
「六甲ケーブル下方面」行に乗車、
「神大国際文化学研究所前」で下車

【鶴甲第2キャンパス】
神戸市バス36系統「鶴甲団地」行
(「鶴甲2丁目止」行)に乗車、
「神大人間発達環境学研究所前」で下車

神戸大学 国際人間科学部

【鶴甲第1キャンパス】
■グローバル文化学科
〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲1-2-1
TEL 078-803-7515(代表)

【鶴甲第2キャンパス】
■発達コミュニティ学科
■環境共生学科
■子ども教育学科
〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲3-11
TEL 078-803-7905(代表)

<http://www.fgh.kobe-u.ac.jp>

2018年6月発行